

1 基本計画の目的

磯城郡川西町下永地区の県有地（以下「計画地」という。）では、「子どもを中心に多様な交流が生まれるまち KAWANISHI」をテーマとしたまちづくりを推進しています。

令和7年に策定した「川西町県有地活用基本構想」の内容を具現化するとともに、事業スケジュール等の具体的な検討を行うことを目的として基本計画を策定します。

2 計画地の概要

計画地は川西町の北東部、磯城郡川西町大字下永地区内に位置し、面積は約 15ha です。計画地は農用地として利用されていましたが、現在は未利用の県有地となっています。

また、計画地内には送電線や流域下水道管路などの構造物が存在するため、計画地の整備にあたってはこれらの構造物の影響について留意する必要があります。



計画地の位置（出典：地理院タイルに加筆）

3 計画地活用の基本方針

計画地は以下の2つの方針で活用します。

① 地域のスポーツの振興にも資する世界的スポーツチームの関連拠点の誘致

- 世界に羽ばたくアスリートを輩出する拠点の誘致
- 国内はもとより世界各地のチームが強化試合や大会を通じた県内での滞在(宿泊を伴うスポーツツーリズム)
- 地域の子どもたちやチームとの連携によるスポーツの裾野の拡大
- 留学生と地元の学校・地域との交流

② 地域の活性化につながり、子どもたちも楽しめる企業の誘致

- 商業施設や飲食店、スポーツ関連企業も含め、地域の賑わい創出に前向きな事業者の誘致

なお、計画地には、スペインのプロサッカークラブ「FC バルセロナ」のトップレベルの選手育成のための施設である「バルセロナレジデンスアカデミー」を誘致する方針です。

4 施設配置の基本方針

グラウンドやクラブハウスなどのサッカー関連拠点を中心に地域スポーツを盛り上げる「スポーツゾーン」、地域の活性化につながる企業を誘致する「企業誘致ゾーン」、広場などのあらゆる人々を受け入れ地域の日常を生み出す「交わりゾーン」の3つのゾーニングを設定します。

これら3つのゾーニングに基づき施設を配置することで、多様な交流が生まれ、地域の活性化につながる拠点とします。



ゾーニングコンセプト図

5 施設配置計画

利用者の利便性に考慮するとともに、送電線や流域下水道管路などの土地の構造物による土地利用の制約に留意し、施設配置計画を定めました。

●スポーツゾーン

メイングラウンド（天然芝）やサブグラウンド（人工芝）、クラブハウス等で構成されるスポーツゾーンは計画地中央に配置します。良好なプレー環境を確保するため、グラウンドは全ての面をゴールが南北方向になるように配置します。

●交わりゾーン

広場やプロムナード等で構成される交わりゾーンは主に計画地内の主要歩行者動線と重なる位置に配置します。

●企業誘致ゾーン

誘致企業にとって汎用性の高い土地とするために、計画地北側と南東側に配置します。



施設配置計画図

6 イメージ図



7 事業スケジュール

	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	2027年度 (R9年度)	2028年度 (R10年度)	2029年度 (R11年度)	2030年度 (R12年度)	2031年度 (R13年度)	2032年度～ (R14年度～)
基本計画	■							
造成設計		■						
造成工事				■				
整備事業者募集・決定				■				
スポーツゾーン整備					■			
交わりゾーン整備						■		